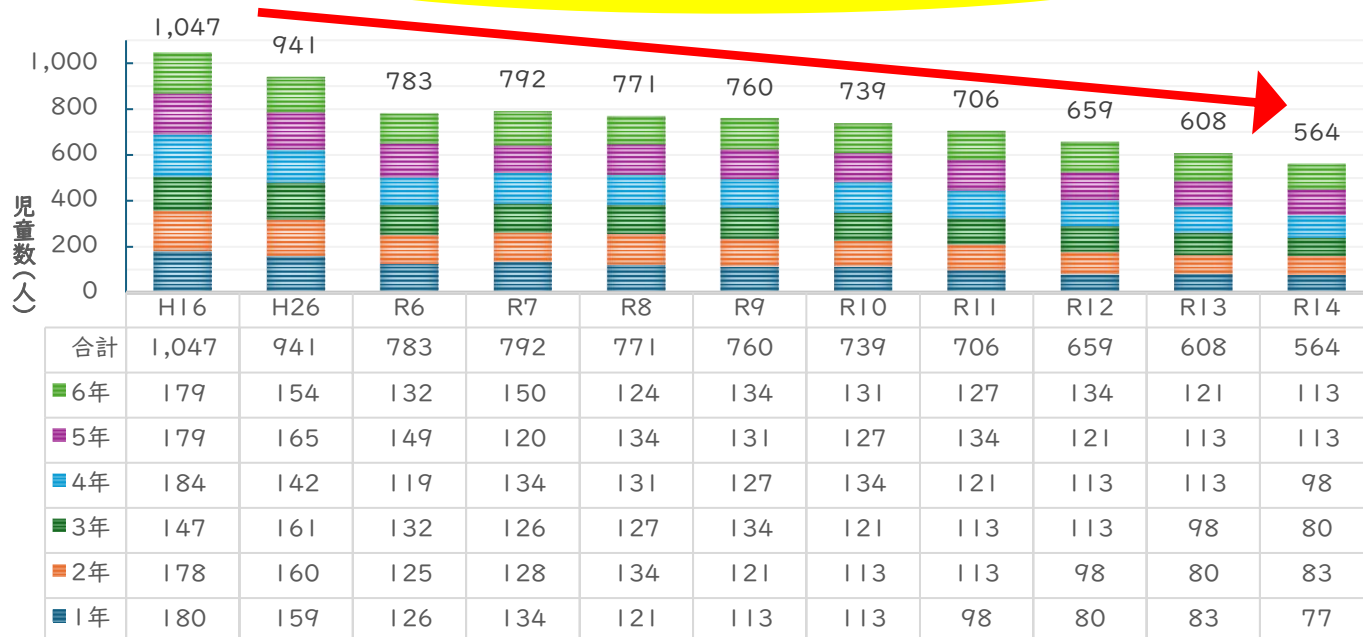


宇和地域の児童数がおよそ 30 年で約 50%減

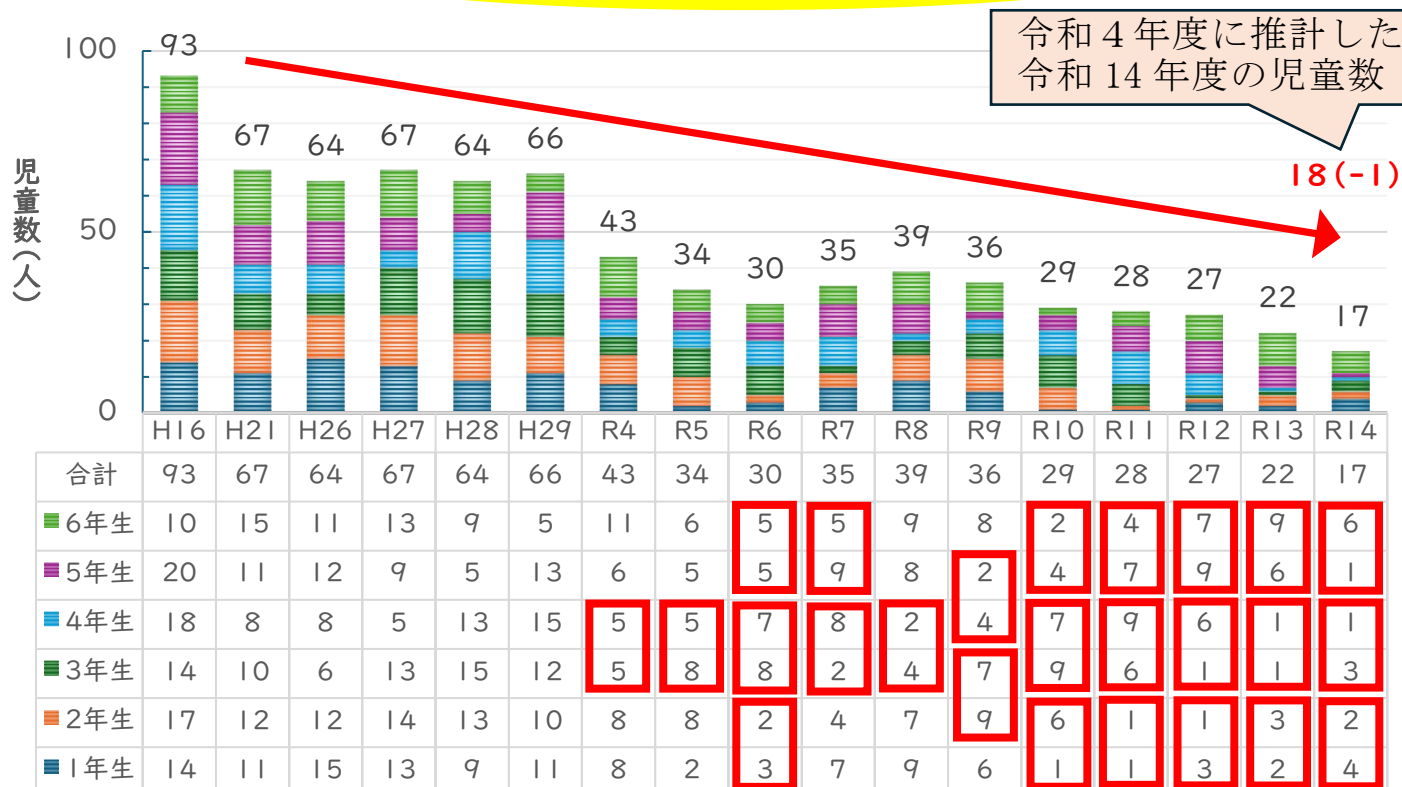
宇和地域では、少子化や人口流出の影響を受け、児童数の減少に歯止めがかからない状況が続いています。

宇和町地域小学校児童数の推移



宇和町地域においては、西予市合併時に 1,047 人いた児童は、現在の推計では令和 14 年度に 564 人（△46.1%）になる見込みです。

多田小学校児童数の推移



多田小学校においては、児童数の減少に伴い、2つの異なる学年が一つの学級で学ぶ『複式学級』が編制されています。令和 10 年度からは、完全複式（全ての学年が複式学級）になり、今後も複式学級が継続する見込みとなります。

複式学級って？

児童・生徒数の減少により、2つの異なる学年の子どもたちを1つの学級として編成した学級です。一人の担任教師が同じ教室で2学年分の授業を同時に進行するため、一方の学年が直接指導を受けている間、もう一方は課題学習（自習）を行うという独特の授業スタイルをとります。

編成の基準

小学校

2学年あわせて16人以下の場合
(1年生を含む場合は8人以下)

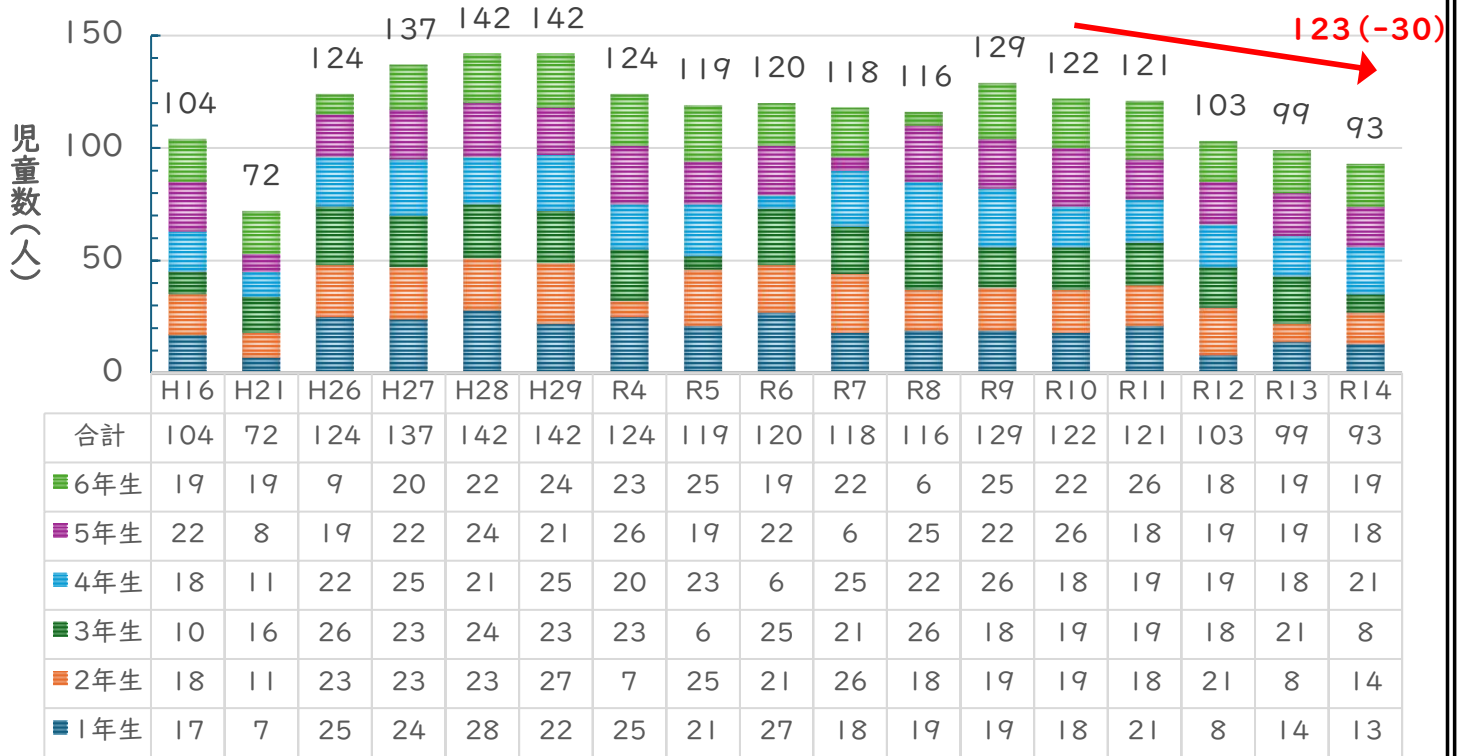
中学生

2学年合わせて8人以下の場合



担任がすべての時間を1つの学年に費やせないため、学習の進度に工夫が必要です。

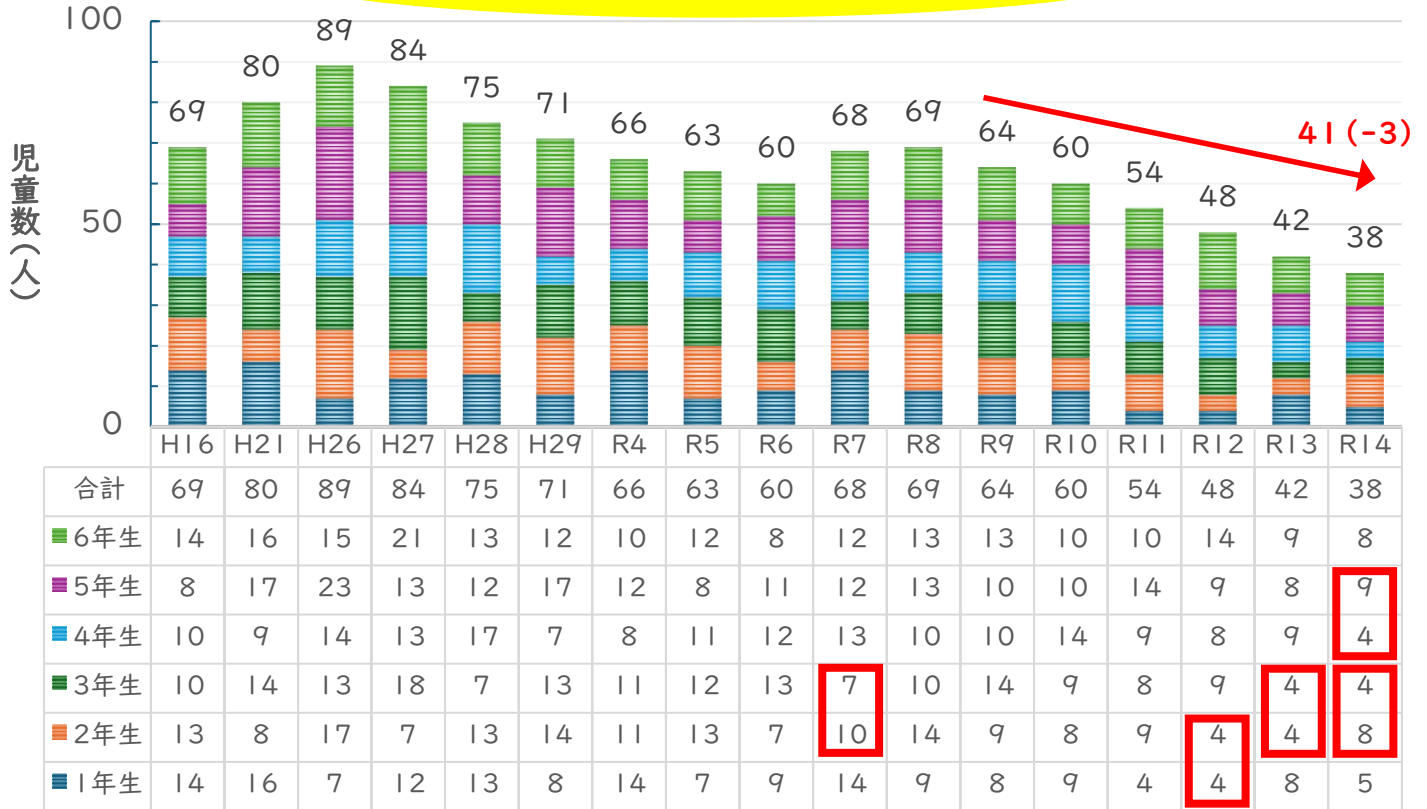
中川小学校児童数の推移



中川小学校については、坂戸に、新築やマンションができた関係で、令和4年度時点では、児童数は減少しないだろうと123名（令和14年度）と予測しておりましたが、今回の推計では30名の差があります。

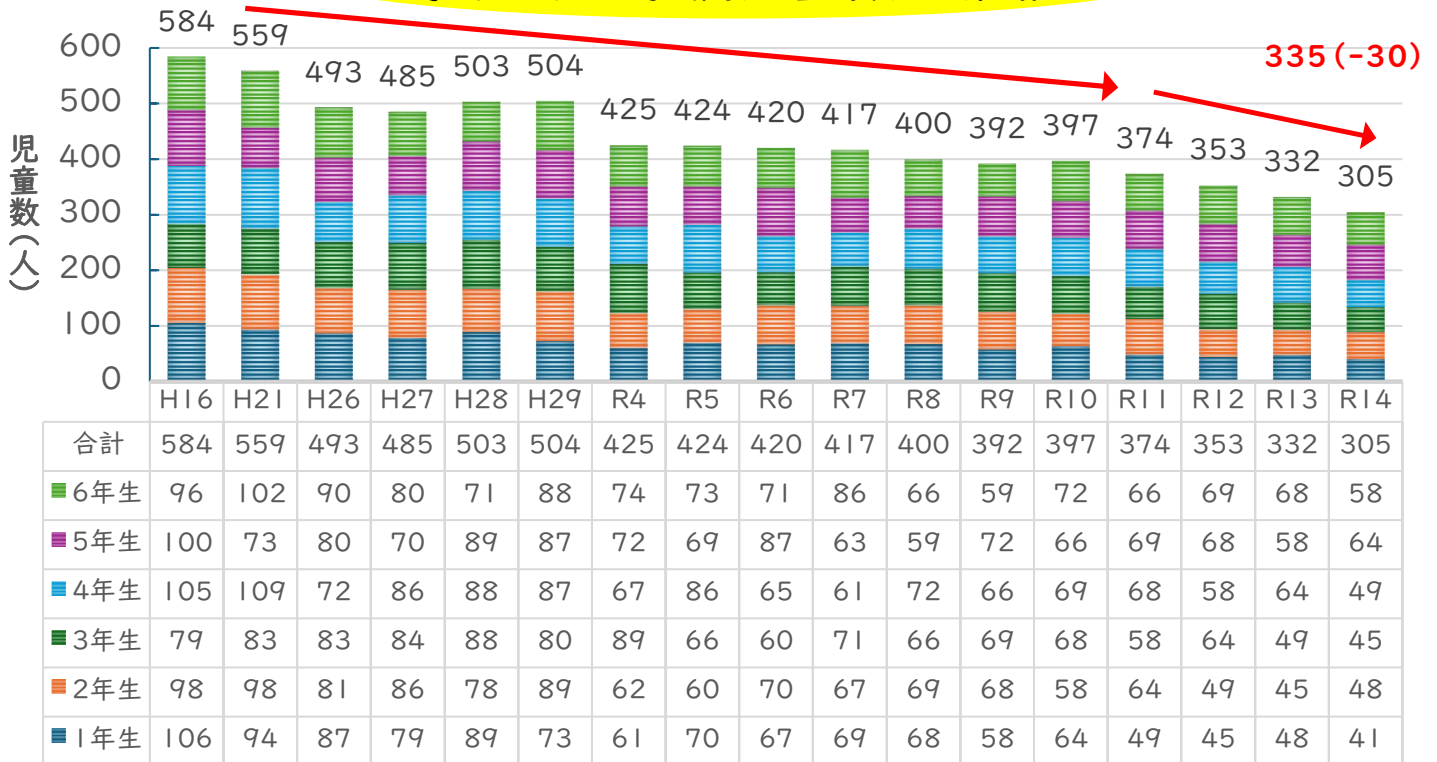
中川小学校区においても、児童数の減少が著しくなっています。

石城小学校児童数の推移



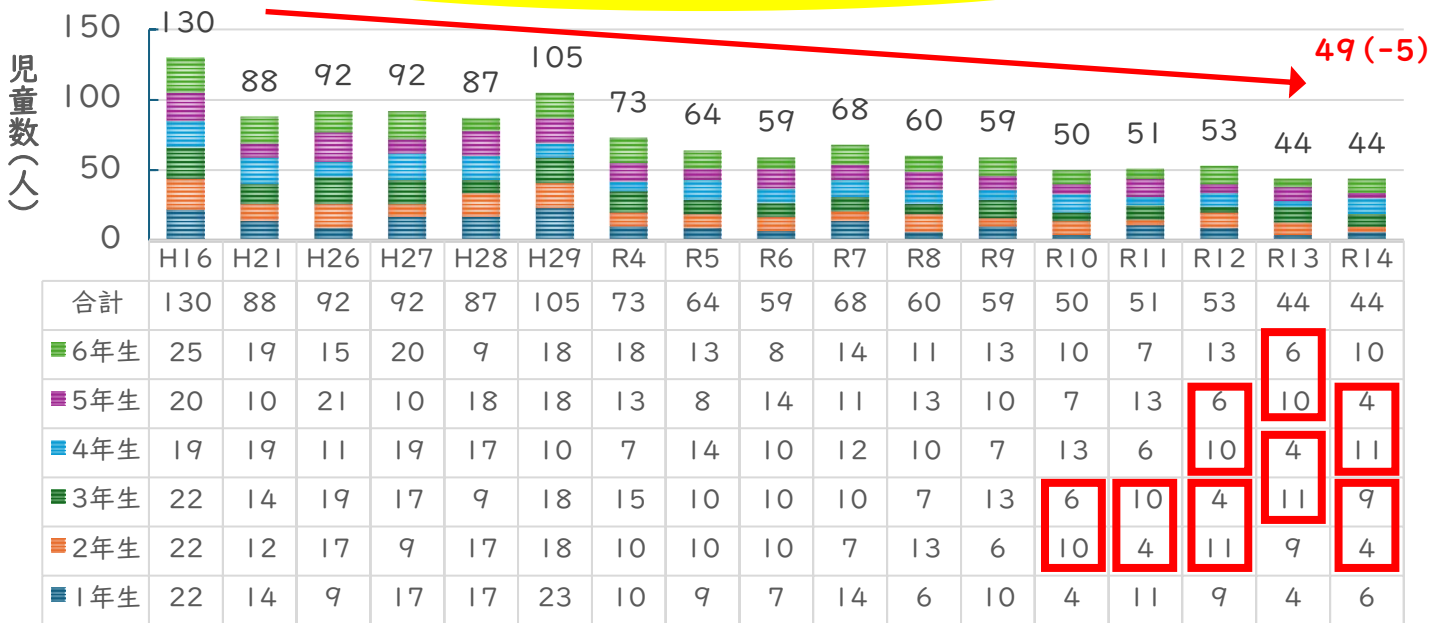
石城小学校においては、複式学級の兆候がみられます。令和13年度以降は、各学年の児童数は1桁まで減ります。

宇和町小学校児童数の推移



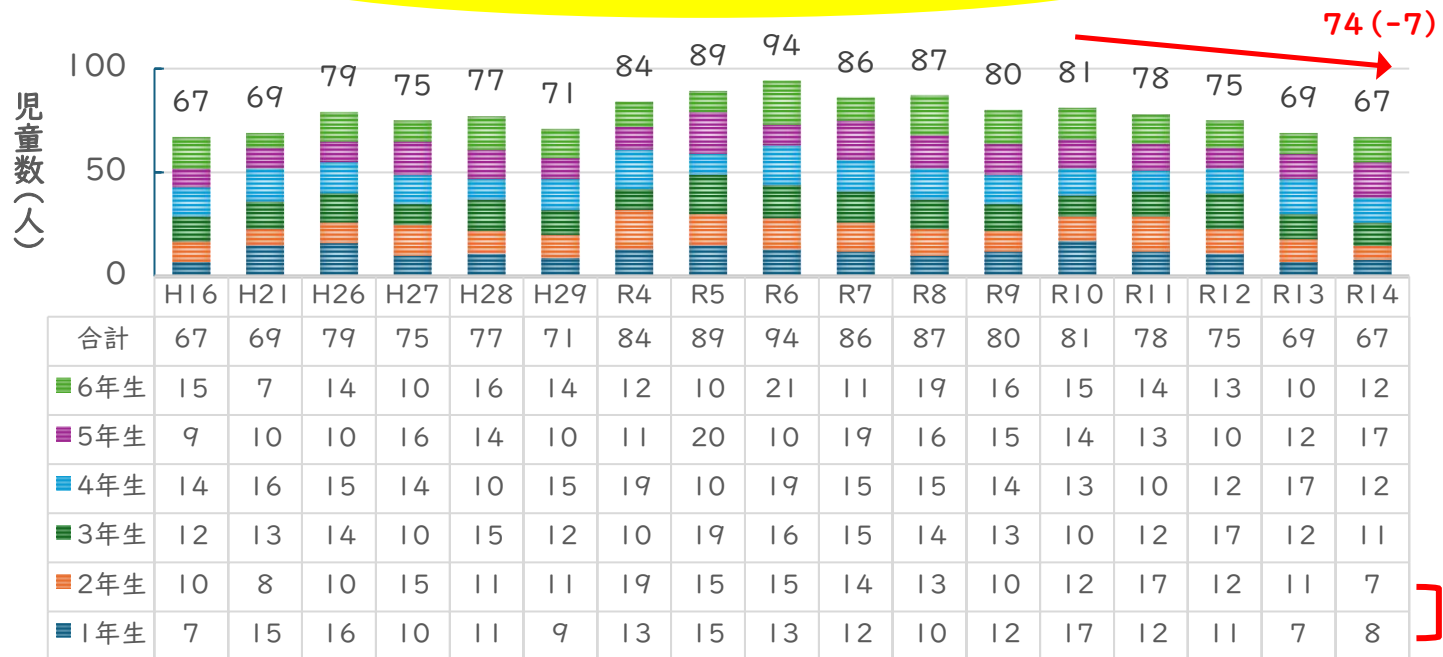
宇和町小学校においては、緩やかに減少しているものの、令和11年度から減少幅が大きくなっていることがわかります。令和4年度時点での推計では335人（令和14年度）になる推計をしていましたが。当時の推計と30名の差があります。西予市の中で1番の児童数を有する宇和町小学校においても、児童数の減少は加速しています。

皆田小学校(旧明間小含む)児童数の推移



明間小学校の複式学級の解消を目的に、皆田小学校は平成29年度に統合しましたが、児童数の減少は止まりません。令和10年度からは、複式学級が編成される推計になります。

田之筋小学校児童数の推移



田之筋小学校については、さくら団地への転入の関係で、令和4年度時点での推計では、緩やかに減少していくと考え、74人(令和14年度)になる推計をしていましたが、当時の推計と7名の差があります。令和15年度からは、複式学級が編成される見込みです。

この推計は、文部科学省が毎年調べている学校ごとの児童数と、令和8年3月31日現在の校区ごとの年齢別人口をもとに推計したものです。どの学校においても、令和4年度時点の推計と比べると、児童数の減少が加速しています。また、令和15年度からは、小学校6校のうち3分の2にあたる4校で複式学級が編成される見込みです。

宇和町地域再編計画書



二次元コードを読み取る
もしくは
クリック or タップ